

熊野古道 大雲取越～小雲取越と湍峡 4日間

飛行機と鉄道を乗り継いで南紀へ。

札幌を出てから 10 時間余り（と、遠い、、、）最初の目的地熊野那智大社へ到着しました。右写真「那智の滝（高さ 133m）」がご本尊。そう、熊野は神話時代にもさかのぼる自然崇拝のメッカなのです。

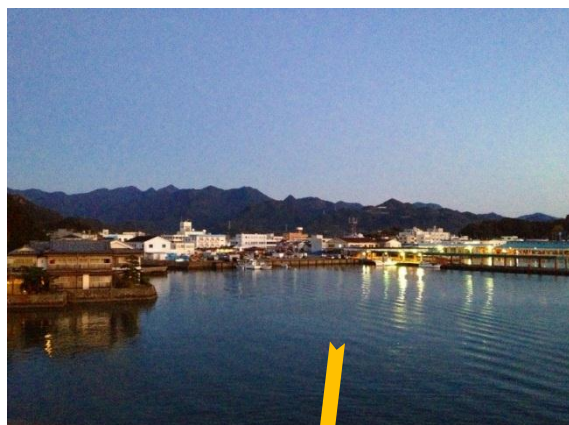
昨年 9 月の台風被害の爪痕も…間違っても登ろうなんて考えてはいけません。

青岸渡寺三重塔と那智の滝、こちらの方が見慣れた風景でしょうか。



苔むした大門坂を徒歩で下り、明日からのトレッキングに備えます。観光だけで訪れても、ここを歩くと「熊野古道」の気分が味わえますよ！

勝浦湾を目の前に臨むお宿に宿泊。あそこに鰹や鯨が水揚げされるのか～

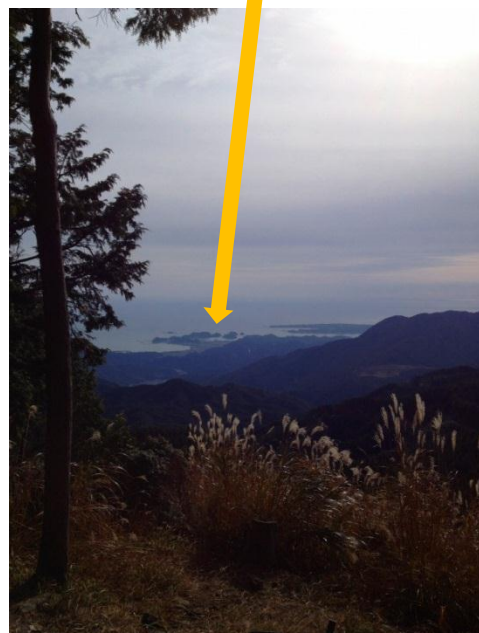


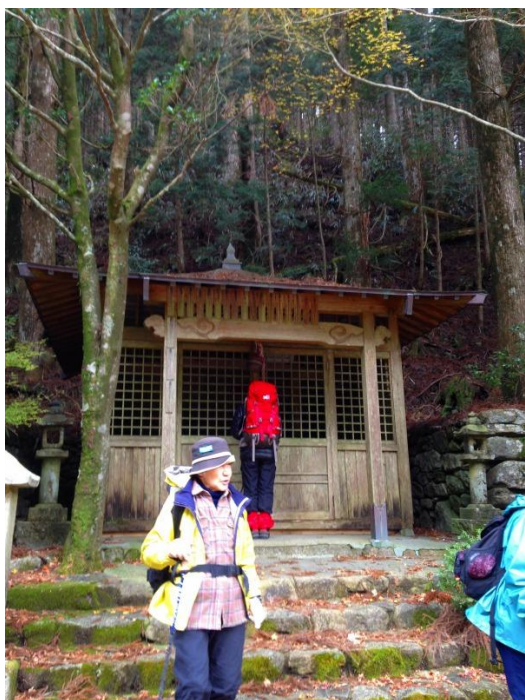
2 日目は早速トレッキングの開始。

那智大社から出発して 2 時間ほどで「舟見峠」へ到着。

リアス式の熊野灘は昔から風待ち港としても良港で、上方と江戸を往来する帆船もよく見えたのでしょよね。ちょうど昨夜泊まった勝浦湾が矢印の辺りかな～？

この日歩いた「大雲取越」は死者の魂が熊野本宮大社までを辿るとされている道でもあります。途中、「亡者の出会い」と呼ばれる九十九折の場所も。‘亡者’なんていうとちょっと怖いけど、自分の先祖や死んだおじいちゃん、おばあちゃんの影に会えるかも?! なんてノリで歩いてみました。





滝尻王子から本宮大社までの中辺路と違って、大雲取越～小雲取越は王子社はありますが、ところどころに江戸時代から明治など近世まで人が住んでいた跡、峠越え道中のお茶屋さんの跡などがいくつもありますよ。

左は地蔵茶屋のお地蔵さんのお堂。↓中の様子 30体以上のお地蔵



さん。表情は一つ一つ違いました。



大きな岩に梵字が三つ刻まれた「円座石」わろうだいし、って絶対、読めないですよ～

熊野三山（本宮、那智、速玉）の神様が座ってお話をしたところと言われています。

三つの梵字はそれぞれの神様を表しているのだとか…

道中の一泊は「小口自然の家」 廃校になった中学校をリニューアルしたお宿へ寄せていただきました。

校庭の大きな木の紅葉が素晴らしく綺麗！

北海道とは木の種類も葉の形も違うので、何の木だかは全く分かりませんでした。こういった植生の違いも、日本各地を旅する楽しみの一つですね！



熊野古道らしい石畳と杉林。でも、こんなに杉が植えられたのは昭和になってからなんです！



小雲取越は小口自然の家を出て集落の家々の軒先を通過して山へ入っていきます。

さすが世界遺産に指定された道。随所に道標があり、迷う心配はありません。(山の中の分かれ道にも「こちらは熊野古道ではありません」などと立て看板がありますよ)

こちらは桜茶屋跡↓ 朝出てきた小口の集落が見渡せます



現在は幼木の桜しかありませんが、ここが賑やかな往来だった時は綺麗な花を咲かせる大木があったのだとか。。そんな古に思いを馳せながら歩くのが古道の最大の魅力！！



「百間ぐら」からの大パノラマ！お天気に感謝～でした。

小さなお地蔵さんが祀られています。

百間ぐら、という地名は‘切り立った岩壁’という意味のようです。確かに足元は深い谷、というか、急峻な尾根筋に道がついているんですね。紀伊山地はここに限らず本当に山が切り立っていて懐の深さを感じます。太古の昔から自然崇拝の対象だったというのも一度歩いてみるとよく分かりますよ！一方で人の営みも色濃く感じ、北海道の山の原始性とは全く趣を異にする場所ですね。





3日目は下山が遅くなってしまったので、最終日の朝にご希望の方だけで熊野本宮大社に参拝してきました。

早朝の参拝は初めてでしたが、他に参拝者はおらず、霜が降りるほどのピンと張りつめた空気の中で本殿を前にすると、本宮の厳かさが引き立ちます。

歩き終わってもタダでは帰らぬノマドツアー？！

最終日は高速ジェット船に乗って、川の熊野古道を上流へ。奈良県、和歌山県、三重県 3 県の県境にある溪谷・瀨峡へ。奇岩が両脇に切り立ちます。



更に速玉大社へも立寄って、本宮にお参りした人はこれで三社ともお参りしたことになります。

冬型の気圧配置で日本海側には大雪が降ったタイミングでしたが、南紀は4日間ともお天気に恵まれました。

～お勧めのお土産紹介～



那智の滝 飛瀧神社の烏天狗のお守り



徐福寿司の秋刀魚一本寿司